

3.8 m 望遠鏡の共同利用の見通し (明日の議論に向けて)

泉浦秀行、神戸栄治 (岡山天体物理観測所)

H28年度UM集録：昨日(9/7)の議論のまとめ

- TAC(SAC)の移行、望遠鏡や共同利用装置の立ち上げ方針、国立天文台から京大に移す資源の内奥と移行時期については、提案が概ね了承された
- 現岡山プログラム小委員会（TAC）に構成員や審議事項を追加し、3.8m望遠鏡による共同利用（特に立ち上げ）について速やかに審議を始める
- 17Bはコールを12月に行い、現TACで審議することとする
- 過渡期と考えて、従来の選出方法を踏襲する形で次期TAC（新SAC）の構成員を選び、光赤外専門委員会に推薦するようにする
- 望遠鏡や共同利用装置の立ち上げ方については、今回の提案を元にして、TAC（SAC）を中心に詰めていく
- 3.8m望遠鏡およびそれを利用した共同利用に対するコミュニティからの支持をより明確に示していくようにする。特に、国立天文台に要望書を出すことを検討する

H28年度UMでの議論全体の要約

- 平成29年度末に国立天文台Cプロジェクト「岡山天体物理観測所」を終了し、平成30年度に共同利用に関する資源（予算、人的資源、施設、設備等）を京大に移す。→準備中
 - 平成30年8月にフロンバケット状態で3.8m望遠鏡による共同利用観測を開始することを目標として、今後京大と岡山観測所は密に協力（最大限の努力を）していく。→実践中
 - 3.8m望遠鏡共同利用の科学委員会については、当面は現在の岡山観測所プログラム小委員会（現TAC）の審議事項に「3.8m望遠鏡共同利用の運用方針・計画の策定」を追加し、そのため構成員も追加し、現TACが科学委員会の役割を果たすようにして、早期に体制の実現を図る方針で詰める。→実行済
 - 平成29年度からの次期TAC（SAC）については、共同利用立ち上げ（過渡）期と考えて、現在の選出方法を踏襲する形で構成員を選び、光赤外専門委員会に推薦するようにする。→実行済
 - 望遠鏡や共同利用装置の立ち上げ方については、今回の提案を元にして、次期TAC（SAC）を中心に詰めていく。→佐藤委員長を中心に実践中
- 共同利用のための時間は、最終的には全観測時間の半分程度を予定しているが、特に立ち上げ期においては、望遠鏡を含む共同利用装置開発のために一定の時間を割くことを認める。→そのまま現在も有効
 - 焦点システム（焦点の周りの取り合い、装置回転機構、装置フランジ、周辺光学系、参照光源光部等）の検討および仕様決定のために、平成28年12月頃に、共同利用観測での利用を計画している全ての観測装置の情報提供を招請する。平成29年6月には、これらのうち第1期共同利用観測装置の搭載提案を募集する。→実行済
 - 共同利用観測者の観測環境（旅費の補助、宿泊、食事、清掃、通信）は当面、現状を維持する方向で検討する。→検討が続いている
- 3.8m望遠鏡およびそれを利用した共同利用に対するコミュニティからの支持をより明確に示していくようにする。特に、国立天文台に要望書を出すことを検討する。→今後の課題

現在の見通し

- 京都大学 (※) :
 - 望遠鏡、ドーム、観測装置の維持・管理・運用、広報
 - 教育研究活動の推進
 - 観測時間の50%程度を国立天文台へ提供
- 国立天文台 :
 - 望遠鏡時間 (含ドーム、観測装置) を借用し共同利用
 - 共同利用の推進体制は国立天文台で用意

※京都大学大学院理学研究科

→国立天文台の共同利用の推進体制の確立が急務な状況

岡山分室（仮称）の設置と運用について（全て案）

泉浦秀行、神戸栄治（岡山天体物理観測所）

京都大学（※）と国立天文台の覚書（案）の中にある

「京都大学は、国立天文台との連携のもと**3.8m望遠鏡**を運用し、研究教育の推進を行いその成果を発信するとともに、国立天文台が**3.8m望遠鏡**で全国大学共同利用を行うことに協力する。」

「国立天文台は、**3.8m望遠鏡**を国立天文台が所有する**1.88m望遠鏡**の後継機と位置づけ、京都大学の協力のもと**3.8m望遠鏡**で全国大学共同利用を行うため、**3.8m望遠鏡**の運用に貢献する」

（※京都大学大学院理学系研究科）

の2つの役割を果たすため、岡山分室（仮称）が設置される予定。
すなわち、

＊ 共同利用観測のお世話（手配等）

＊ 京都大学が行う**3.8m望遠鏡**の運用への貢献

を主な業務とする、最小規模の事業場が設置される予定。

岡山分室（仮称）の人員体制・予算と業務内容

人員体制：

教職員 3名（覚書案に基づく）

うち1名は技術員の可能性あり

事務職員 事務支援員2名程度

[業務支援員（草刈り等） 2名] ←土地借用者として

業務内容と予算（1）：

注：全て検討中（望遠鏡の運用に最大限の便宜を図る予定であるため、岡山分室自体の予算は相当厳しい）

* 岡山プログラム小委員会（SAC/TAC）のお世話

* 共同利用観測者のお世話

共同利用観測者の旅費の補助

→当面は、1課題2名までの予算確保を目指す

→リモート観測が定常運用になれば削減の方向

食堂・仮眠室の運営

→当面は維持する方向で、検討中

→リモート観測が定常運用になれば削減・廃止の方向

食堂については、請負業者が見つかるか、という別の問題もあり

* 岡山ユーザズミーティングのお世話

→これまで以上に京都大学を始め他機関の貢献が必要

→旅費の補助は少し減らす方向で検討中

[岡山分室としては共同利用観測についての意見収集の場として重要と考えているが、この際、将来を見据えて、形を探り始めてみては？]

業務内容と予算（2）：

* 岡山分室自体の運営

- 本館・別館（＋実験工場＋車庫）のみの縮小運営
- ネットワーク専用回線：どこまでダウングレードするか
（分室教職員の研究環境にも関係）
- 無人警備を検討中（現行：夜間休日に警備員配置）

[既存望遠鏡群の利用は、原則として受益者負担で可となる予定。国立天文台は本館・別館と共に所有者としての義務は果たす。分室との関係は未定（ケース・バイ・ケース）]

* 3.8m望遠鏡の運用への貢献

原則的に人的貢献

- 既に装置ローテータの開発は主導的に行っている
- 共同利用観測装置の装置担当はつける予定
- 多くのことは未定

岡山分室（仮称）の運営にご理解、ご協力、
ご支援をお願いします。

岡山プログラム小委員会や国立天文台等に意見を出して頂くことが重要